

◆市街化区域内樹林・樹木の分類と保全・活用への考え方（案）

樹林 樹木 の 分類	市民の期待		現状の保全・活用に向けた 課題とインセンティブ（今後検討予定）	調査での代表例	
	保全期待型 樹林・樹木	開放期待型 樹林・樹木			
	将来にわたり、現状の樹林等が残ることに期待	自然と触れあえる身近な場としての活用に期待			
(1) 杜さん	○ *地域の由緒・由来のある緑として現状で残って欲しい。	—	●地域での祀り等が定着している「杜さん」（地域型） ●祀り等の定着が見られない個人地の「杜さん」（個人地型）		
(2) 寺社林	○ *地域の歴史文化シンボルともいえる“静かな森”として残って欲しい。（境内地+周辺樹林）	○ 一般市民が静かに散策できる程度には公開して欲しい。	●境内地の樹林 ●境内地と一体的な「周辺樹林」		
(3) 宅地内の樹林・樹木	戸建住宅型	○ *地域シンボルの巨樹、古木を残して欲しい。 *外からも見える屋敷林を残して欲しい。	—	●宅地内の巨樹、古木、名木 ●屋敷林	
	共同住宅型	○ *マンション共有庭の樹木・樹林をまとまりのある緑を残して欲しい。	—	●マンション共有地の樹林（共有林）	
(4) 残存樹林	山林型	○ *宅地化による消滅は常に必然。しかし生駒市を緑の住宅都市を特徴づける貴重な緑。ひとつでも多く、1年でも長く残って欲しい。	○ *樹林内に入ることができ、昆虫採集や散策などができれば、身近な自然として素晴らしい。	●身近な街なか樹林	
	片急傾斜地型	○ *段丘崖の樹林は市街地内で多く見られ、立面的な緑として景観効果を発揮している。多くは斜面上下が土地利用され、今後に残る可能性は高いと考えられる。	—	●段丘崖の樹林（急斜面地）	